

概要報告

実施期日	8月1日(金)
部会名	中学校 保健体育部会

テーマ

『 自らの課題を明確にし、いきいきと取り組む相撲の授業 』
～ 楽しさや喜びを味わうことのできる授業づくりを目指して ～

提案概要

研究主題の趣旨にある「生徒一人ひとりが課題をもって自ら運動を行い、その楽しさや喜びを味わうことができるような学習を進める」を受け、「一人ひとりの課題を明確にすること」が重要と捉え、教え合い活動（言語活動）を活用させることを考えた。さらに授業の最後にあるカード記入にしっかり取り組ませることにより、より一層自分の課題を明確にし、その改善策を考えさせるようにした。

また、武道の授業にありがちなマイナスのイメージである「痛い・怖い」などを取り除くために、単元の早い段階から試合を多く取り入れ、武道の醍醐味でもある「勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう」ことのできる授業づくりを試みた。

○実践の概要

本研究では、2つの事を重点的に取り組んだ。一つ目は、一人ひとりの課題を明確にするため、アドバイスゾーンをつくり、試合後すぐにアドバイスゾーンでの教え合い活動（言語活動）を審判を含めた三人一組で行わせ、仲間からの客観的な意見を聞き自分の課題を明確にし、次の試合に臨ませた。また、授業の終わりに「課題と反省」のカード記入をさせ、次の授業に活かせるようにした。

二つ目は、楽しさや喜びを味わわせるために、相撲のメリットである「勝負の速さ」「勝敗の明確さ」「取り組みやすさ」「安全性」を活かし早い段階で試合を行わせた。

質疑概要

- ・ 2時間続きの保健体育の授業についてメリットは理解したが、デメリットがあれば教えて頂きたい。
- ・ 年間指導計画で9月というまだ暑い時期に相撲の授業が計画されているが、生徒の反応はいかがなものか。
- ・ マットが動かないようにどのような工夫をされているのか。
- ・ 「課題と反省」カードがなかなか書けない生徒へ、どのような指導を行っているのか伺いたい。

研究協議概要

提案後、協議の柱を2つ設定し、参加者を6つのグループに分けてグループ協議を行った。その後、グループ毎に協議内容を発表した。

〈協議の柱〉

- ① 武道の授業で言語活動を充実させる取組
- ② 指導と評価の一体化

①武道の授業で言語活動を充実させる取組について

○アドバイスを取り入れる。

- ・ 擬音語（オノマトペ）を使用すると話しやすい。
- ・ ポイントがずれないように着目する点を明確にし生徒に伝える。
- ・ 上手いかなかったところに関しては解決策も伝えるなどのルールを作る。
- ・ 柔道の中では投げる際に「えい」とか「いくよ」という声をかけるということは相手に安全面を伝える言語活動という意味でもよい。
- ・ 教師側からの仕掛けも大切だが、まずは子ども達にどこが大切かを理解させた上でどのようにアドバイスをさ

せていくかを伝えることが大切。

- ・少人数やペアで行うと客観的に見る目が少なくなってしまうし、アドバイス等も出しにくくなってしまわないかという考えもあるので、3～4人グループを作りアドバイスを出し合っていく。審判の生徒を一人つけることにより審判の生徒が見る力を養うことになり、さらに充実したアドバイスが出るようになる。
 - ・2グループを合同にしてAがBを、BがAを見てお互いにアドバイスをし合う。
- 3年間を見通して言語活動を行わせる。3年間取り組むことによりアドバイスも「できている」「できていない」だけでなく「何が」「どこが」などを見ることができるようになり具体的になる。そのためにも、ポイントを明確にして3年間を見通し指導していく。
- 教え合い・学習カードの工夫・掲示資料の活用。
- 目的、目標、授業の流れなどを明確にする。

②指導と評価の一体化について

- ・ポイントを明らかにして、口頭やプリントを使用し指導を行う。
- ・技能のポイントや明確な基準を生徒に提示することが大切であり、また生徒の意欲にもつながる。
- ・運動が苦手な生徒に対しては目標値を少し低めに設定するということが楽しさや喜びを感じさせるために有効である。
- ・授業の終わりの試験だけでなく授業の間でも試験を行う。今自分自身の技能がどれくらいの評価なのかを把握でき、その生徒が授業を通して最初に比べてどれだけ力をつけたのかを確認していくことができる。また評価基準を明確にすることにもつながる。
- ・視聴覚教材を使用している学校が多く iPad 等を使用し、テレビに接続して映像を流し続けて生徒が自分の姿を見ることができとても有効的である。

その他として

- ・剣道は、防具に汗が染み付き匂いがとれず、それを全校生徒で使いまわしている状況。
- ・用具が人数分揃わない・置き場所がない。
- ・視聴覚教材の工夫。
- ・男女共修の難しさ。試合なども男女一緒に行いたいのが、力の差があり難しい。
- ・基礎練習・反復練習の取りませ方。
- ・場の工夫・時間の確保

まとめ概要

アドバイスゾーンを設置したことにより「試合→話し合い→試合」の流れがスムーズになり、積極的な意見交換が行われ、課題を明確にすると共にその課題を解決するために自ら考え、意欲的に活動することにつながった。振り返りカードにおいても仲間の意見などを聞いていることから、いつも以上にしっかりと自分を分析した内容を記入できていた。また、早い段階で試合に取り組ませることにより、運動量の確保もでき、生徒がとてもいきいきとした表情で授業に取り組んでいた。

研究協議では、「武道の授業で言語活動を充実させる取組」と「指導と評価の一体化」の二つについて活発な意見交換ができた。特に、言語活動については各校で実際に取り組んでいる内容や今教員側が考える課題などの意見が出てお互いの知識を共有できた。また、その他の話題として、武道の授業での問題点や改善法などに付いても各学校での工夫などを情報交換することができた。各地区、各学校の実態を踏まえグループ協議が進められたことは、今後も各校で武道の授業を実践していく上での参考になるものも多く、大変有意義な研究協議となった。

今後の課題としては、一人ひとりの課題をより明確にすることや、教え合い学習がさらに定着するための工夫としては、視聴覚教材を利用し実際の自分の動きを繰り返し見せるなどの視覚からのアプローチも必要である。また、その際の説明や準備などに時間をかけ過ぎず、運動量を確保しながら授業を展開していく工夫の必要である。